

COMMUNICATION MAGAZINE

The KPUM TIMES

vol.01

September 2018

京都府立医科大学の「いま」を伝える広報誌

◎特集1

建学150周年に向けて

大学沿革―1872年～2018年―
歴代学長インタビュー

◎特集2

永守記念

最先端がん治療 研究センターのいま

Part I センターでできること



京都府立医科大学
KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY OF MEDICINE

京都府立医科大学の「いま」を伝える広報誌	
COMMUNICATION MAGAZINE The KPUM TIMES	vol. 01
CONTENTS >>	

京都府立医科大学と 縁の深い青蓮院門跡

天台宗の京都五ヶ室門跡の一つ、青不動
で有名な青蓮院門跡には、本学発祥の地
として京都療病院跡の碑が残ります。



- 03 | 学長挨拶
- 04 | TOPICS
エディンバラ大学との交流
「DMAT」と本学の使命
- 06 | 特集1 建学150周年に向けて
大学沿革 —1872年～2018年—
歴代学長インタビュー
- 08 | 特集2 永守記念
最先端がん治療
研究センターのいま
Part I センターでできること
- 10 | 大学紹介
研究活動
- 11 | 医学教育について
研修医として思うこと ～本音トーク～
- 12 | 看護学科について
対談：看護学科長×看護部長
- 14 | 学生紹介
- 15 | 大学トピックス
附属病院レストラン「風花」オープン
夏のオープンキャンパス開催
- 16 | 大学からのお知らせ
附属病院オープンホスピタル2018
学祭トリアス祭2018

20年後を見据えて 大学院改革に着手

京都府立医科大学 学長 竹中 洋



「いい医療・いい人材」を 提供しつづけた

少子高齢化が進み、健康や病気との向き合い方が急速に変化する時代の様相を見据え、さらには将来を見越して、学生には自主的に学び、解決する能力が求められています。また医科大学には「その時代に対応できる医療人」をどのように養成し輩出するかが求められる時代です。

かつての治療は手術と抗生物質でしたが、今日ではゲノムが解明され、体のしくみに合わせて薬が開発される時代となりました。これらの複雑な内容を順序立てて教えていては、一人前の医療人になるまでに、入学から数えると20年を要することになります。

日本の医学部は、人口構成が様変わりしているであろう20年後、現在の教育では社会の要請に応えられないのではないかと、という大きな課題を抱えているのです。



その状況下で、大学病院としてすべての機能を備えた本学が求められている使命は、高度で先進的な「いい医療」を提供することであり、京都府下をはじめ約80カ所の関係病院に対して、将来にわたって「いい人材」を送り続けていくことだと自負しています。

「大学院地域生涯健康医学コース」 を来年4月開講

こうした時代の変化を見据え、本学では大学院の改革に着手し、「大学院地域生涯健康医学コース」を新設します。来年4月にスタートするこの新制度は、本学の強みである「地域保健医療ネットワーク」を活用し、健康から病気を考える健康医学研究、および地域医療を担う人材の学び直し教育の場としての「地域生涯健康医学」の研究拠点の形成を目的としています。

医療における社会のニーズは大きく変化し、ゲノム医療研究や予防医学研究、あるいはAI・IoT臨床応用研究や最新がん治療研究、ライフスタイル健康医学研究など、従来には見られなかったテーマが重要になっています。実社会で活躍している医療人が専門外の分野に目を向けて医療の幅を広げたいというとき、本学に来て、これらの関心あるテーマで学び直しをすることで新たな働き場所を見つけることができるというしくみです。

このモデルは、日本だけではなく「少子高齢化」のキーワードでつながる国々にも役に立つはずです。京都府立医科大学スピリットを海外でも発揮できる人材の育成に力を尽くしたいと考えています。

TOPICS

エディンバラ大学
との交流

学長 竹中 洋



左から、エディンバラ市長、エディンバラ大学医学部国際教務部長、竹中学長。
協定締結式はエディンバラ大学にて行われた。

京都府と姉妹都市を結んでいるエディンバラ市から、昨秋副市長が来京され、交流を深める一環として、本学とエディンバラ大学との大学間連携について提案がありました。

本学はこれまでオクラホマ大学(米国)やリーズ大学(英国)と学生交流を進めてきました。そんな中、今回、エディンバラ大学との連携をきっかけに、将来を見越して、派遣する学生に大学がどのような支援をするのか、どのレベルの英語能力が必要かなどの諸条件を決め、より実りある連携にしようという気運が高まりました。そこで、6月下旬に本学を代表して私がエディンバラ大学を訪問し、協定書に調印してまいりました。

この連携ではまず本学から、今年11月に4週間の日程で学生4名をエディンバラ大学に派遣し、エディンバラ大学からは来年4月に学生が4週間の日程で来京します。期間中

は、お互いに実習の単位認定も行います。

国際交流は、長く続けていくことが前提で、かつお互いにメリットがなければなりません。本学にとっては、医学部の歴史が300年近くもあり、世界大学ランキングで常にベスト20に入っているエディンバラ大学との交流は学ぶことが多いと確信しています。派遣学生が、学問だけでなく言葉遣いや振る舞いなどを経験し、後輩に伝えていくことも、大学の財産になるでしょう。

本学においても、日本の医学の歴史とともに培ってきた、地域に根ざした医療提供体制や西洋医学と東洋医学の良い面を取り入れ活かしていく最新の日本の医療を肌で感じて頂けるよう、よりよい留学生の受け入れ体制を構築していきます。

この連携事業については教職協働で取り組み、海外との交流ノウハウを蓄積

して、将来は東南アジアにも目を向けて、新たな交流につなげていきたいと考えています。



鉗子の発明者ジェームズ・シンプソン氏の肖像画



街並みは世界遺産に登録されている



エディンバラ大学内研究施設を見学



エディンバラ大学医学部を見守る骸骨

「DMAT」と本学の使命

大学院医学研究科 救急・災害医療システム学 助教 武部 弘太郎



本学には災害急性期に派遣するDMAT※として現在、医師5名、看護師6名、業務調整員6名が登録されています。私は今年からDMATに入ったため、6月の大阪府北部地震が初の出動となりました。

大阪府北部地震は震度6弱でしたので、即座に医師、看護師、業務調整員（ロジスティック）など各部署の勤務体制を見て誰が出動できるかを調整して自動待機し、京都府から要請が入った段階で出動しました。

被災地に行くことも大切な任務ですが、被災状況によっては、当院に傷病者が運ばれてくるかもしれません。このためDMAT隊出動の準備と並行して、医療従事者の安全は確保されているか、手術室・透析室・ICUなどの主要な場所に損壊はないかなどをチェックし、受け入れ体制が維持できることを確認することも大切な業務の一つです。

DMAT隊は医師、看護師、業務調整員で構成され、被災状況や全国のDMAT隊

の出動状況に応じて4～6名の多職種で編成します。今回の震災ではライフラインがダメージを受けていたことを踏まえ、ガスの停止や断水により各病院で診療が行えない状況はないか、医療従事者や職員の人数に不足はないかなど、情報の収集と整理の任務につきました。DMATには救護活動、病院支援、傷病者の搬送など、いろいろな仕事があり、今回は本部業務の支援を中心に行いました。DMATの活動には、現場への交通経路など刻々と変化する状況の中で即時性が求められるため、最近はSNSによるリアルタイムのやりとりで、緊密な連携をしています。

活動を通して感じたのは、“本番”を想定した日ごろの訓練と、コミュニケーションが取れる人と人のつながりの重要性です。

大阪府北部地震の出動にあたり日頃の備えによって迅速な対応ができましたが、それでもなお課題があることも分かり

ましたので、現在、あらためて見直ししているところです。本学は、一般災害だけでなく、原子力災害拠点病院にも指定されています。今後はテロなどの特殊災害も含めた広範囲の災害医療に対しても地域医療を支える公立大学病院として重要な役割を担っているため、その準備も進めています。

いつ発生するか分からない 「そのとき」に備えて

事務局総務課

福利厚生担当 副主査 森野 利行

本学のDMATは東日本大震災の後に編成され、熊本地震や大阪府北部地震に出動しました。DMATは、①地域における震度6弱以上（東京23区は5強以上）の地震、②大津波警報が発表されたとき、あるいは東海地震注意情報が発表された場合、③大規模な航空機墜落事故などのときに自動待機します。そのため、いつ発生するか分からない事態に備えて、政府や京都府、京都市、近畿ブロックの訓練、原子力災害を想定した訓練などが実施されています。また、速やかに出動するためには、現地で使用されると想定される資器材を常に用意しておかなくてはなりません。DMATの方々には使命感をもって取り組んでおられますので、事務局も先生方の気持ちを汲みとってサポートしております。

※DMAT: Disaster Medical Assistance Team。医師、看護師、業務調整員（救急救命士・薬剤師・臨床検査技師・放射線技師・理学療法士・社会福祉士・事務員など）で構成されており、災害急性期に各都道府県から派遣され、広域医療搬送、臨時医療拠点、病院支援、域内搬送などの活動に従事する。

特集1 建学150周年に向けて 一大学沿革 1872～2018年—

京都府立医科大学は1872年(明治5年)に設立されて以来146年の歴史を誇るわが国でも最も古い医科大学の一つです。

本学の設立に至る経緯は極めてユニークです。1868年(明治元年)から京都府を通じて西洋医学の教育病院を設立したいと願っていた京都市民の寄付によって、京都東山の青蓮院の境内に病院を建て、そこにドイツ人を講師に呼んできたのです。多くの医科大学・医学部では、まず大学などの教育施設ができ、その研修の場として附属病院が作られましたが、本学では、府民の医療を第一とする病院がまず作られ、次にこの病院での医療・医学を担う人材を養成する場として大学が位置付けられました。

看護学科は1889年(明治22年)に設置された附属産婆教習所に始まり、附属看護専門学校、医療技術短期大学部などの変遷を経て、2002年(平成14年)から医学部看護学科として設置されています。

設立以来、本学は地域社会の要請に応えることのできる優れた医療人、研究者を養成するという使命を担い、今日に至るまでこの設立方針が堅持され、府民から絶大な信頼が寄せられています。

歴代学長インタビュー



元京都府立医科大学学長
元京都府立医科大学第一解剖学教室教授

佐野 豊

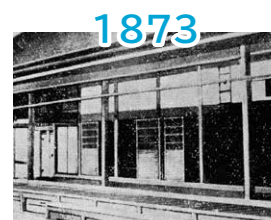
(大正15年4月18日生まれ、92歳)

恩師の野田秀俊教授が消化器がんを発症、55歳で急逝されたため、1961年6月、35歳の私が後任の第一解剖学教室教授に選ばれた。当時は、活発な学生運動が全国的に展開されており、京都府立医大でも学生が教授会中の部屋に乱入し、大半の教授が総合講堂に連行され軟禁される事件が起こった。この時教授会は若かった私を学生部長に選び、過激な学生たちとの折衝に当たらせた。これが契機となって、私は1973年から2期、さらに1982年から2期、合計12年も学長の職に就いた。私は1990年3月、定年を迎えて退職したが、大学の激動期に、学長の要職にあった日々の思い出は、今も脳裏を去らない。母校が平穏な学園として、充実した歩みを続けることを心から願って止まない。



療病院開業式式次第

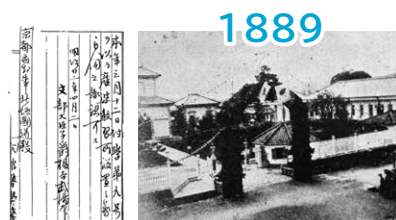
栗田口青蓮院療病院



療病院(青蓮院)の病室



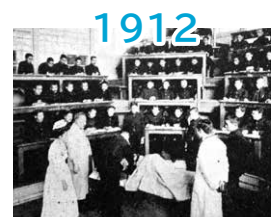
療病院・医学校卒業生



産婆教習所設置認可



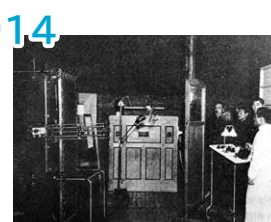
看護婦講習生



臨床講義



医学専門学校本館



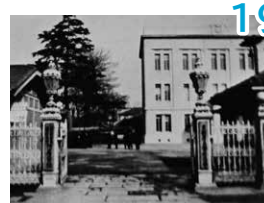
レントゲン室



附属療病院玄関



西方から附属病院を望む



医科大学正門



学術研究会発会式

1872 明治5年11月
粟田口青蓮院内に療病院を設け、患者の治療を行うかたわら医学生を教育した

1880 明治13年7月
現在地の上京区河原町通広小路上の梶井町に療病院を移転

1889 明治22年4月
本校の附属として産婆教習所を設置

1921 大正10年10月
大学令による京都府立医科大学を設置し、同時に予科を開設

1949 昭和24年4月
附属甲種看護婦学院(後に看護学院と改称)を設置

1952 昭和27年2月
学校教育法による新制大学を設置

1957 昭和32年3月
本大学に大学院(医学研究科)を設置

1971 昭和46年6月
医療センターを設置

1972 昭和47年11月
創立100周年

1976 昭和51年9月
専修学校制度により、附属看護学院を附属看護専門学校と改称

1982 昭和57年11月
附属小児疾患研究施設(京都府こども病院)設置

1993 平成5年4月
医療技術短期大学部(看護学科)設置

2002 平成14年4月
医学部に看護学科を設置

2007 平成19年4月
大学院医学研究科修士課程及び大学院保健看護研究科修士課程を設置

2008 平成20年4月
本学と京都府立大学を運営する京都府公立大学法人設立

2011 平成23年9月
外来診療棟等(第2期)工事完成

2012 平成24年11月
創立140周年記念式典挙行

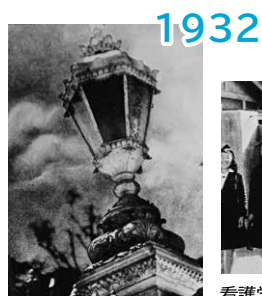
2013 平成25年4月
附属北部医療センター開設

2014 平成26年9月
三大学教養教育共同化施設(稲盛記念会館)竣工

2015 平成27年4月
学校教育法改正に伴う大学新体制スタート

2017 平成29年11月
永守記念最先端がん治療研究センター竣工

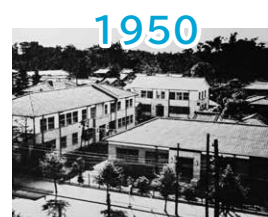
2018 平成30年4月
大学院保健看護学研究科博士後期課程を設置



医科大学門灯



看護学院生徒



医科大学西構(現文化芸術会館所在地)



看護学科戴帽式



病院廊下を通過して突入するデモ隊



花園分院



創立100周年記念式正面

臨床研究棟



鴨川より基礎1号館及び病舎



大学全景



附属図書館・合同講義棟



病院玄関



外来診療棟等



新大学門



三大学教養教育共同化施設



永守記念最先端がん治療研究センター竣工

特集2 永守記念最先端がん治療研究センターのいま

Part I
センターで
できること

インタビュー

大学事務局 参与 荒田 均

大学院医学研究科 放射線診断治療学
助教 相部 則博

京都府立医科大学では、世界トップレベルのがん治療・がん治療研究を、大学をあげて推進しています。日本電産(株)代表取締役会長兼社長永守重信氏がオーナーである(株)エスエヌ興産からの寄附により開設された、「永守記念最先端がん治療研究センター」は、来春には本格的に始動。京都府下で初めてとなる陽子線治療が始まり、がん対策に大きな期待が寄せられています。



陽子線照射装置を操作する相部先生

正常組織への影響を抑えつつ腫瘍
を狙い撃ちできる「陽子線治療」

都道府県がん診療連携拠点病院として、質の高いがん医療を提供し社会に貢献する京都府立医科大学附属病院。「永守記念最先端がん治療研究センター」では、がんの予防・診断、そして最先端のがん治療を一貫して行い、これからも、がん治療研究の拠点としてよりよい治療を患者さんに届けていきます。

では、京都府下で初めて導入された陽子線治療システムはどのようなもの

なのでしょうか。陽子線は放射線の一種で、水素原子から電子を取り除き、陽子を高速に加速して生成するビームです。大きな特徴は、X線に比べて放射線の集中性が高いこと。

「X線は体の表面から近いところで放射線が強く、そのあと徐々に弱くなっていきながら、体を貫通していきます。一方で陽子線はある深さで放射線量が最大になり、それ以上先には到達しない特性を持っています」(放射線科 相部則博先生)。これをブラックピークといい、標的に応じて照射

の深さや幅を調整して陽子線を当てることで、X線よりもがん病巣に集中的に放射線を当てることができるわけです。この様に陽子線治療ではがんの周りにある重要な臓器や正常細胞への影響を抑えることができるので、副作用の軽減が期待できます。

陽子線治療は、進行していない限局したがんにも有効であり、現在、保険適用がされているのは、小児がん、頭頸部がんの一部、骨軟部腫瘍、前立腺癌。今後のがん治療の構想について相部先生は、「センターでは、現時点で有効性が示されているがんに対して積極的に陽子線治療を提供していきます。また全国の施設と協力し、有効性のあるがんを探し出し、保険適用を目指す取り組みにも積極的に協力していきます。」と話します。

「永守記念最先端がん治療研究センター」の主な設備

「本校は日本のがん治療研究の拠点としてふさわしい設備が揃いました」(荒田 参与)。



永守記念最先端がん治療研究センター

陽子線照射装置・治療室

内径約3m、重さ約200トンにも及ぶ巨大な回転ガントリーを搭載。この装置を回転させることで、腫瘍に合わせて360°どの方向からも陽子線を当てることが可能になり、正常な組織を傷つけにくい方向を選択して、治療を行うことができます。

日本では全国20余りの施設で粒子線治療が行われていますが(炭素線含む)、当センターの装置にはスポットスキャンング照射技術と動体追跡技術が搭載。たとえば呼吸によって動く肺や肝臓などに発生した複雑な形の病変にも正確に陽子線を当てることができます。

加速器室

陽子線治療室のいわゆるバックヤード。直径約5m、1周約18mのリング状の装置が、ライナック(直線加速器)で加速した陽子を取り込んで、最大で光速の60%まで加速します。加速した陽子は陽子線照射装置に送られます。

PET画像検査センター

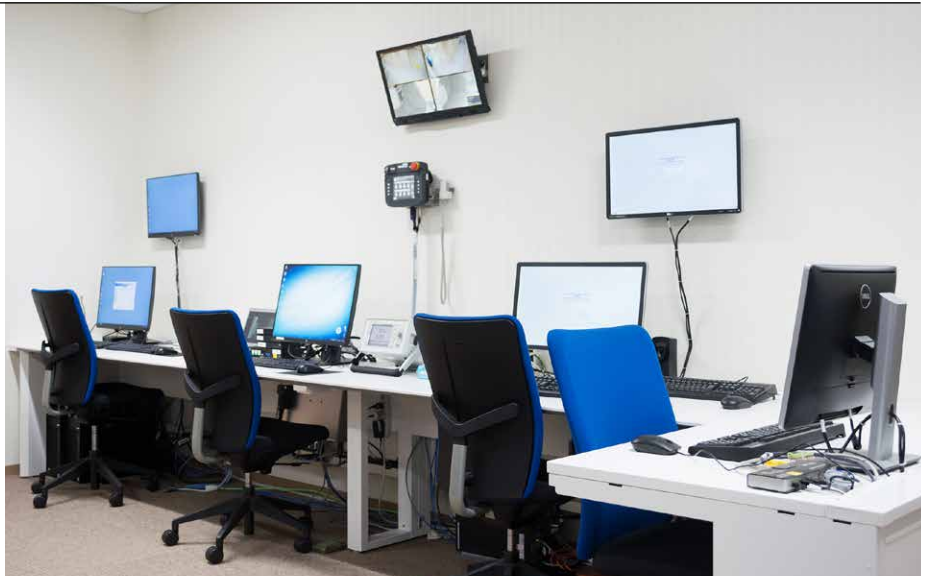
PET検査はがんの存在や広がりを的確に診断する検査方法のひとつ。検査薬を投与し、がん細胞に目印をつけ、専用の装置で撮影することにより、従来の検査と組み合わせることで病期(がんの進行度)をより正確に診断することができます。

外来化学療法センター(化学療法室)

がん治療として、化学療法(抗がん剤、分子標的薬、ホルモン剤など)や特殊な管理を行います。専用のリクライニングシートやベッドを設置し、患者さんが安心して快適に治療を受けられるよう配慮されています。

温熱療法室

熱に弱いというがんの弱点を利用したもので、がん細胞を狙って高周波の電磁



波を送り、42度～44度に加熱します。副作用は少なく、放射線や化学療法との相性が良く、効果を高めることができます。

高精度放射線治療装置

病巣を立体的にとらえ、複数の方向から強弱の様々なビームを組み合わせることで、X線を腫瘍部位にピンポイントで照射することが可能です(今後整備予定)。



荒田参与



最新のPET-CTは早期がん細胞まで発見が可能

大学紹介 — 研究活動 —

京都府立医科大学の研究分野におけるランキング

※()内は前回の順位、大学数は平成30年度の数(出典:朝日新聞出版「2018年版大学ランキング」)

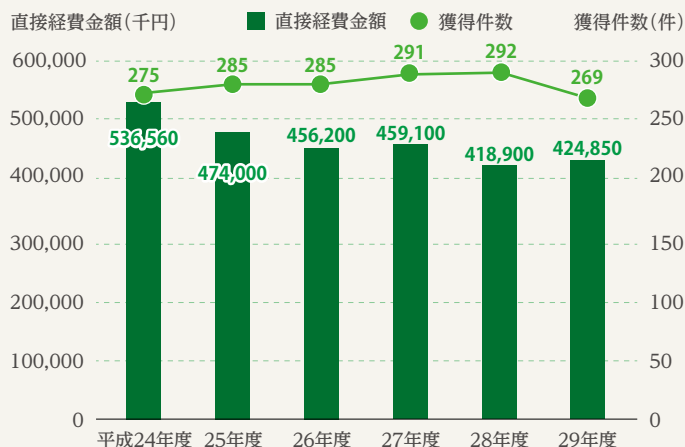
科学研究費補助金総額 (平成29年度)※教員1人当たり

金額	2,653千円	全公立大学中 (89大学)	1位(1)	国公立医科大学 大学中(26大学)	3位(2)	全大学中 (770大学)	15位(11)
----	---------	------------------	-------	----------------------	-------	-----------------	---------

書誌・引用データベース「Scopus」(掲載論文) (平成25~29年度)※教員1人当たり

件数	5.62件	全公立大学中 (89大学)	4位(3)	国公立医科大学 大学中(26大学)	11位(2)	全大学中 (770大学)	34位(37)
----	-------	------------------	-------	----------------------	--------	-----------------	---------

文部科学省科学研究費の推移



研究成果トピックス

高松宮妃癌研究基金平成29年度学術賞を受賞



分子標的癌予防医学 酒井教授が高松宮妃癌研究基金平成29年度学術賞を受賞し、2018年2月22日に贈呈式が行われました。「公益財団法人高松宮妃癌研究基金」はがん撲滅を発意された高松宮妃殿下が会長となられた「なでしこ会」を母体として設立され、本学術賞は、がんに関する研究で特に顕著な業績を挙げた日本人研究者に対して贈呈されるものであり、我が国のがん研究者にとって非常に荣誉ある賞です。

受賞者: 分子標的癌予防医学 酒井敏行教授

研究業績: ファースト・イン・クラスのMEK阻害剤トラメチニブの発見

業績内容: がん抑制遺伝子RBタンパク質が多くのがんで失活していることに着目し、RBタンパク質を活性化型にするサイクリン依存性キナーゼ(CDK)阻害因子の発現を上昇させる薬剤を細胞を用いて探索する独自のスクリーニング方法(RB再活性化スクリーニング)を考案。

本スクリーニング手法により、臨床試験に入ったMEK阻害剤トラメチニブ(商品名メキニスト)、RAF/MEK阻害剤CH5126766、及びHDAC阻害剤YM753/OBP-801の発見・同定に成功。

特にMEK阻害剤トラメチニブは、進行性BRAF変異メラノーマ(悪性黒色腫)と非小細胞肺がんの標準療法を抜本的に変え、米国での承認を皮切りに、現在では60カ国以上で使用されている。国内企業とともに共同で進めた創薬研究による成果であり、我が国発の産学連携の極めて大きな業績であると評価されて受賞したもの。

対談 研修医として思うこと～本音トーク～

卒後臨床研修センター長

山脇 正永

臨床研修医 2 年次

濱澤 悠佑

臨床研修医 1 年次

大西 友理



研修医の育ての親 山脇センター長

山脇 まず、なぜ当院を卒後臨床研修先を選んだのか聞いてみたいのですが。

濱澤 大学病院と市中病院の研修を1年ずつ組み合わせる、“たすきがけ”の制度が魅力でした。その中で私は1年目に市中病院で研修するBコースを選びました。1年目は救急医療をしっかりやりたいと思って。まずは第一線の現場で体を動かし救急の場面で鍛えてもらい、その後研究の充実している大学病院にて、先生方とのカンファレンスも多い環境で、じっくりと勉強に取り組みたいと考えました。

山脇 思い出深い出来事がありますか？

濱澤 救急で脳梗塞の患者さんが来られたことがありました。脳梗塞は時間との闘い。現場はバタバタして入る隙もありませんでした。なのに「なんで採血してないんや!」って怒られて。ちょっと理不尽かなと思いましたが(笑)、リアルな緊迫感を体験しましたし、急性期と慢性期を扱う科では先生のキャラクターが全然違うこと

にちょっと驚きました。

山脇 大西さんは他大学出身ですね。

大西 はい。内科医志望ですので、さまざまな診療科がある大学病院はとても魅力的でした。でも市中病院での研修もいいなと思って迷っていましたが、やはりたすきがけ制度のあることで、こちらを選びました。

濱澤 たすきがけ制度は将来の指針にもなりますね。実は私は研修を通して糖尿病内科医を志すようになりました。糖尿病は一生つきあっていく病気で、医者としても一生患者さんに寄り添っていく。その一助になりたいと思ったんです。いろんな科のいろんな患者さんを診ることで、予防医療の重要性も再認識し、その啓蒙にも力を入れたいと思っています。

山脇 地域医療研修ではどこへ？

濱澤 石垣島です。島という条件もあり、自分の裁量や判断に任されることが多くて、薬ひとつを入れるにもより慎重になり

ましたし、退院の時期も自分が決めるので患者さんの今後のことをより深く考えるようになりました。責任感とあわせて少し度胸もついたかなと思います。

大西 そうした研修プログラムと共に本院のロケーションも研修先として人気の理由だと思います。すぐそばが鴨川で気分転換できて。

山脇 京都は海外からもいろいろな方に来てもらえるんですね。「京都なら行く」と言って。医学の多彩な情報が入って来るのもメリットではないでしょうか。

本院はここ10年ほど、マッチング率100%を誇っています。でもそれが偉いのではなく肝心なのはプログラムの充実。私たちは学生や研修医諸君、指導医と相談しながら作成していて、毎年少しずつ内容を見直し変えています。時代に合った、またこれからを見据えたプログラムをフルに活かし、おいに頑張ってください。



府立医大卒生の濱澤さん(左)と他大学出身生の大西さん(右)

看護学科について

学生は「宝」、そして「仲間」

Heart・Hand・Headの精神で「循環型教育システム」を実践する

Talk 看護学科長 岩脇 陽子 × 附属病院 看護部長 藤本 早和子



岩脇 藤本さんは本学出身ですね。学びの環境はどうでしたか？

藤本 大変に恵まれた環境でした。附属病院は大規模な特定機能病院、そして高度急性期病院ですから、実習を通してさまざまな疾患について学べ、「臨床の府立医大」ともいわれる非常に高いレベルの医療に間近で触れることができましたから。

岩脇 さらに今は、「看護実践キャリアセンター」が開設され、「循環型教育システム」による看護師育成が実にうまく機能しています。以前にも増して、学生は恵まれているといえそうですね。

藤本 はい、うらやましいほど(笑)。特にいいと思うのは4年生での「看護の統合と実践」です。医師とともに臨床の看護師、それも教育インストラクターの

育成プログラムを受けた看護師が指導にあたり、今、実際に行われている看護技術を教えています。

岩脇 そういった看護学科と附属病院との協働があってこそ実現していますよね。授業では看護部長、認定看護師、手術室や麻酔科などの講義もあって。みなさんの協力には感謝ばかりです。

藤本 学生さんはすでに私たちの「仲間」ですから。

岩脇 私たちにとっては学生は「宝」。誰もがすごく真摯で真剣、看護に対して純真な気持ちを持っていてくれる。京都府内はもちろん広く世界で貢献できる可能性をいっぱいに秘めています。これからも、生涯看護活動に関わり社会に貢献したいと思う若い人が集い、共に学んでほしいと願っています。

藤本 先生のそして大学の教育理念をぜひここで、改めてみなさんにご紹介していただけたら、と思うのですが。

岩脇 看護学科は明治22年から130年



看護学科長 岩脇 陽子

の歴史を持っています。この間脈々と受け継がれてきたのが、「生命及び人間の尊厳を尊重する豊かな人間性や創造性、高い技術と専門知識を培い地域社会に貢献できる人材を育てる」こと。この精神を揺るぐことなく持っていきたいと思っています。ひと言で言うとHeart(心)・Hand(技)・Head(知識)。それらを基盤に未来志向の看護を創出してほしいです。

藤本 そうした理念を「点」ではなく「線」として附属病院側が受け継ぎ、継続して教育を行っているんですね。たとえば新人看護師と先輩看護師がペアを組むプリセプター制度、新人さんから3年目の看護師を対象とした「一人前看護師育成」など、

個々の成長を考慮して、教育が施されています。一人前看護師育成では、プリセプターは、新人さんがリアリティショックを受けないようサポートするための研修も受けますし、先生方もキャリアラダーに従ってどのように成長したか評価し指導のアドバイスをさせていただきます。

岩脇 今後も人事交流を活発にし、協働で心豊かで高い看護スキルを備えた看護師を育成していきましょう。さらには少子高齢化による在宅看護など時代に応じた教育プログラムを充実させ、社会の変化に対応できるしなやかな能力を養うこともますます重要になってきます。この点でも密に連携し、将来も学び続ける自立した

看護職者を育てていきたいですね。



附属病院 看護部長 藤本 早和子

総合的な能力を育む基礎・教養科目、専門基礎科目、専門科目

	基礎・教養科目	専門基礎科目	専門科目		
			看護学の基本	看護学の展開	看護の統合と発展
生命及び人間の尊厳の理解	生命倫理、人権論など		生活援助論、基礎看護学実習	成人・小児・母性・老年・精神・在宅の演習及び実習	
主体的に看護が実践できる能力		人体構造機能論、生化学など	看護基礎理論、看護方法論など	成人・小児・母性・老年・精神・在宅の実習	看護の統合と実践(実習)
科学的思考に基づいた判断力、問題解決能力			ヘルスアセスメント看護方法論	成人・小児・母性・老年・精神・在宅における看護過程の展開と実習	研究方法論
保健・医療・福祉との連携・調整を図る能力		社会福祉学、医療と経営、家族社会学など		成人・小児・母性・老年・精神・在宅の実習	看護の統合と実践(実習)
国際理解とコミュニケーション能力	英語、中国語、ドイツ語、フランス語、英会話、国際情勢の理解				国際看護・国際保健、国際看護英語
自らの課題を探索し、研究していく基礎的能力					研究方法論、看護マネジメント論、災害看護論など

学生紹介

医 学 科

医学部 医学科 1 年 君島 静

出身校：京都府立嵯峨野高等学校

君島さんを下鴨キャンパスの教養教育共同化施設で発見。ここでは京都府立医科大学と京都府立大学、京都工芸繊維大学の3大学の学生と一緒に教養教育を学んでいます。3つの大学が手を取り合って医学だけではなく幅広い視点から学ぶことができるこの先進的な取組み。君島さんは、幅広い科目の中から「食と健康の科学」の授業を選んだのだとか。

「物事の背景を知るのが昔から好きでした。医学生って医師になるつもりで入学するんですが、隣に座っていても他学生は当然違っていて。そういう自分の中の「当然」を打ち破って、いろんな側面から物事を見られて、あらゆることに新しい良さが見つかるのが楽しいです。」



看 護 学 科

医学部 看護学科 1 年 上田 由香

出身校：京都府立桃山高等学校

上田さんを訪ねて広小路キャンパスの看護学学舎にお邪魔しました。大学に入って3ヶ月の正直な印象をお友達と一緒に聞くと、勉強量が思ったより多くて…とこっそり話してくれました。

「当たり前なんですが、高校までは先生がすごくかみ砕いて教えてくださってたなあと。大学の先生は自分の言葉でスラスラと喋ってしまうので、自分で興味を持って調べていかないとどんどん分からなくなります。いろんな先生がいて、いろんな教え方があって、でもどの先生も看護に対してすごく熱心で真摯なのが伝わってきて。言っていることをもっと知りたい、と思います。専門学校の専門分野まっしぐらだけでなく、大学らしく幅広い勉強が結構大変ですが、なんとか頑張っています。」

附属病院レストラン

「風花-KAMOGAWA-」オープン

お話 | 京都 東急ホテル「風花-KAMOGAWA-」
今井 正己 支配人

風花-KAMOGAWA-は、病院内レストランとして6月1日に開店しました。附属病院外来棟4階に位置し、緑豊かな景色を眺めながら、ゆったりとした空間でホテルメイドのお料理が楽しめます。メニューには、肉と魚を交互に楽しめるよう工夫された日替わりの「風花ランチ」、塩分調整メニュー、軽食などがあり、来院される方のご要望に合わせたサービスの提供を心がけています。お客様からいただいたご意見を大切にして、今後はいろいろな面で新たな試みをしていきたいと考えています。



窓際のカウンター席は緑の木々が目に入り開放感がある



夏のオープンキャンパス開催

平成30年8月6日、8日開催

大学受験を控えた受験生や高校生みなさんに本学の学習環境や雰囲気など知ってもらおうと、本学では毎年夏にオープンキャンパスを行っています。先生による模擬授業をはじめ、在校生による大学紹介や少人数のキャンパスツアー、いろいろ聞ける座談会など、本学の学生や教員としっかり話せるのが本学のオープンキャンパスの特徴です。今年も医学科、看護学科ともにたくさんの方に御参加いただきました。参加者からは「大学院には必ず行かなければいけないの?」といった将来を見越した積極的な質問が飛び交うなど、在学生にとっても「あの頃」に立ち返るいい刺激になりました。

実習模型に触れる高校生達

大学からのお知らせ

10/6(土)

附属病院オープンホスピタル2018 (明治150年京都創生記念)

京都府立医科大学附属病院では、地域医療を支えるだけでなく、教育機関として医師や看護師の育成や、学びの拠点として病気の予防・啓発事業など、みなさんの健康を守るための様々な取組を行っています。そこで2016年から、附属病院の取組を御紹介する「オープンホスピタル」を開催しています。日頃はお覧いただくことができない病院の施設や医療スタッフを身近に感じていただけるこの機会。大学病院にご縁のない方も、医療に興味のある方も、ぜひお越し下さい。

今年は明治150年京都創生記念として、京都府立医科大学公開講座も同時開催予定です。

開催日程：10月6日(土) 10:00~16:00(予定)

開催場所：京都府立医科大学附属病院

詳細HP：<http://www.h.kpu-m.ac.jp/>



昨年度開催の様子



11/2(金),3(土)

学祭 トリアス祭2018

毎年、医学科3回生と看護学科2回生による実行委員会が盛り上げる本学の学祭「トリアス祭」。屋台の出店はもちろん、ステージイベントや雑貨販売、お化け屋敷をはじめ、医科大学ならではの寄生虫標本の展示やヘルスチェック、ハンドマッサージなども好評です。医大生はもちろん、地域の大学生や先生、OBの方々、附属病院の入院患者さんや地域の方も気軽にキャンパスに入って楽しんでいただけます。

平成最後の開催となる今年のテーマは「芽」。はたしてどんな企画が飛び出すか、ぜひ当日お越し下さい！

開催日程：11月2日(金)、3日(土)

開催場所：京都府立医科大学 河原町キャンパス、広小路キャンパス



好評のアロマオイルのハンドマッサージ(2017)



鴨川沿いのステージイベントの様子(2017)